別冊

「第３回地域の教育を考えるワークショップ」での主なご意見

１月９日に開催された第５回総合教育会議では、将来の県立高校のあり方に関し、これまでにいただいた様々なご意見を踏まえてとりまとめた「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）についてご議論いただきました。

今後、この基本方針に関し、さらに多くの声をお聞きするため、「地域の教育を考えるワークショップ」を開催しました。

第３回ワークショップの概要

開催日時

【新川学区】１月３１日（金）10 時～12 時：新川文化ホール
【富山学区】１月２４日（金）14 時～16 時：富山県民会館
【高岡学区】１月２３日（木）14 時～16 時：高岡文化ホール
【砺波学区】１月２９日（水）15 時～17 時：ＴＯＮＡＭＩ翔凜館

参加者

教育関係者（市町村教育長等、中学校長、高等学校校長及び教諭）、経済界・保護者の代表

テーマ　グループワーク①

・令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について

グループワーク②

・「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について
・「目指す姿」の実現に向けた検討方針

ご意見概要（項目別）

Ⅰ．令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿について【要約】

基本目標	・高校を「義務教育とつなぐ場」、「社会とつなぐ場」とすることが大事 ・「学びたい、学んでよかったと思える県立高校」が子どもにとって大事 ・「『新時代』に適応し、未来を切り拓く人材の育成」という基本目標はその通りでいつの時代も将来予測は困難
教育内容（学科）	・普通系学科が分類されているのはよい ・普通系学科を細かく分け過ぎ。それらをどこの学校でも複合的に学べなければ子供の成長につながらない ・グローバルやＳＴＥＡＭなどがしっかり選択できるくらいのカラーとして育つことが重要 ・県外へ出ても地域に戻ってくる子どもたちを大切にしたいという思いから、地域共創といった地域から学ぶ内容が必要 ・普通系学科は整理されている一方、職業系学科は未整理 ・教育内容など具体的に何をする学校か、何が身につくのか見えてくるとよい
学校規模	・大規模校のイメージがつかない。県内に２～３校必要なのか慎重に考えてほしい ・大規模校では先生の数が増えるため、生徒に目が届くのではないか ・子どもたちの選択肢を増やすという点で大規模校はあるべき。設置すれば活動の場面が増え、切磋琢磨できる ・小規模の中学校から大きい高校へ入学した生徒は適応に時間がかかるリスクもある ・中規模校は、生徒や保護者、教員がイメージしやすい。大規模校はアイデアを募らせ今までにないスタイルにしなければならない ・小規模校では生徒の顔と名前が一致し、手厚い指導が可能 ・生徒数の大小によるメリット、デメリットはある。少人数であれば子どもへの手厚さは増すが、教員の負担は大きい ・規模に関わらずワクワクできる学校をつくってほしい
教育内容と学校規模の組合せ	・普通系学科と職業系専門学科をはっきり区別して特色を出して、選択しやすい学科構成にする方がよい ・１年次は基礎的な学習をして自分の進路を考え、２年次から将来の希望に応じた教育を選択できるとよい ・それぞれの規模の中で、何をするかが大切 ・学習内容を選択できる仕組みがある学校を望む割合が高いアンケート結果を捉えていくことが大切 ・大規模でいろいろな価値観を受け入れられる仕組みづくりが課題。中規模でも、多様な価値観に触れられるよう横展開ができるとよい ・各学科構成のパターンでどのような生徒を育てるかを具体的に見えるようにすべき
配置数の目安	・「バランスよく配置」は地域性、学科構成など人によって思いが違う ・移動時間が一番のロスであり、近いところを選ぶことも一つの選択肢としてある ・地元の学校ではなく、市町村を出てみることも必要 ・大規模校１校よりも、中規模校をそろえた配置の方がよい

Ⅱ.「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について【要約】

配置の姿	・ゴールを決めてそこに向かう手法はよい。進めていく途中で検証や評価が必要。令和 20 年度も途中経過という意識をもって取り組むべき ・変化する段階毎にどのように変わっていくのかということを理解してもらうことが大切 ・ハード面もソフト面も含めた逆算が必要
移行準備校	・新時代ＨＳと併設されることになる、移行準備校の生徒が置き去りにならないように教育の質を担保する必要がある ・ゼロベースで、全ての学校を移行準備校としたことはよい

Ⅲ.「目指す姿」の実現に向けた検討方針について【要約】

新時代ＨＳの開設等	・新時代ＨＳの最終形の 20 校のイメージ図があるとよい ・「目指す姿」に向けて、少しずつ変化させていく中短期目標があれば、無理なく進めていく上でよい ・令和 10 年度に入学する生徒は、令和７年度に中学校へ入学するので、早めに第１期校の情報提供をする必要がある
学科・コースの改編等	・子どもが志望校を決めることに不安を覚えるのでスピード感を持って、令和 15 年度など早い段階で動けるとよい ・学科改編など今できることは取り組んだ方がよい
様々なタイプの学校・学科	・中学校と高校の学習内容は重複する部分があるため、教育内容が深まる方向であれば中高一貫教育は価値のある教育スタイルになる ・外国籍生徒の割合が高くなっているので、外国人特別枠などの仕組みで幅広い選択肢が設けられていることは大切 ・県外に出ていくばかりでなく、全国から富山に来てもらえる流れをつくるためにも全国募集の検討が必要
施設・設備	・計画が遅れ、校舎が使えないなど教育に支障が出ないように進めてほしい ・大改革として、施設・箱物の見直しにこそ希望がある。生徒と教員の意見も合わせて、新しいものを取り入れたらよい
活力ある学校・組織づくり	・各高校にコーディネーターを配置できたらよい。企業も求めている ・教育内容を具現化する教員の育成が必要 ・新しいことに取り組む必要もあり、そこに挑戦していく教員の意識改革が大事
その他	・全日制だけでなく、定時制や通信制も含めて考えていくべき ・県外へ進学する中学生も多いので、小中学校と連携し、県内で学びたい子が増えるとよい ・多様な入試制度を考えたらよい

主なご意見（学区別）

新川	・新川と富山を一緒にして東部エリアとしたことにも違和感がある。新川から富山へは通いやすいとは思うが。 ・小規模校は新川に置く必要があるのか。南砺平ほどの地域はなく、どこでも通えるのではないか。 ・新川地区と関わりの深い工業科や農業科は特に必要ではないか。高校と地域の連携が大切となる。 ・新川学区を考えた時、例えば、朝日町・入善町の生徒が上市町や立山町の学校に通学する選択肢には入らないであろう。中規模校をバランスよく配置することが必要だと思う。 ・新川学区としては大規模校の設置は難しい。様々な人との出会いを考えると複合型の様々な学科が集まっているところがあればよいのではないか。今後の人口減少も見通した上で検討していく必要がある。
富山	・規模と地域ごとの配置については異論なし。 ・富山市の中心部や北部はある程度の規模の学校が作れるが、南の方は人口が少ない。そうした生徒のことも考えながらバランスよくやっていくことも必要。 ・富山県はコンパクトな県であるがゆえの配置も大切であり、高校と地域のつながりも必要ではあるが、自分の行きたい高校に行くことが大切だと思う。 ・探究学習となると、富山市はかなりコンパクトとなるので、逆に難しさがある。エリアが富山県全域でもよいのではないか。氷見高校が入善町のことをしてもよいのでは。富山県としての魅力発信ができればよいと思う。
高岡	・このような大規模校が必要なのかと率直に思ったが、仮に県西部に一カ所作るのであれば、交通の便のことを考慮すれば高岡学区のどこかなのだろうと思う。 ・高岡学区をはじめ富山県全体でも外国籍生徒の割合が高くなっている。今後、地域や日本を支える貴重な存在になり得ると考えられるので、外国人特別枠以外にもそうした生徒がチャレンジできるような仕組みなどの幅広い選択肢が設けられていることは大切だと感じている。 ・高岡学区は、ほどよい田舎都市で、適度な便利さと不便さが共存する地域なので、子どもたちは伸び伸びと成長できる。それを感じることができれば、Uターンして地元で活躍する人も増えるのではないかと思う。 ・呉西・呉東の切り分けだが、文化や言語が異なるので、呉西地区の教育を維持・管理してくことが必要。地元に密着した教育も残して欲しい。
砺波	・砺波地区の問題は、金沢があること。ワクワク感や魅力があって、金沢に行かなくても富山でも十分にやれるという気持ちにさせたい。 ・砺波学区は、小さい学区ではあるが、様々な学科があり、中学生に対してある程度多様な選択肢が用意されている。それをアップデートすることは大切だが、学区の中で、中学生が様々な選択ができるように学科が設置されてほしい。 ・子どもたちがこれだけ部活動のことを言っているのに、案の中に部活動のことが書かれていないように思う。こうした部分をよく検討してほしい。 ・再構築し、大中小規模校にすることについては賛成だが、砺波学区では大規模校の配置は難しいので、小規模校と中規模校の配置が必要と思う。 ・子どもの数が減少する中では、高岡、砺波と考えるのではなく、県西部で揃えていくという考え方は理解できる。 ・砺波学区には職業系専門学科を充実させていくべきだと思う。地域の協力をもらえる風土があるので、コラボレーションしていけば、よりスペシャリストの育成につながるのではないか。

主なご意見（項目別）

Ⅰ．令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿について

※下線部は、項目ごとに整理してｐ１～ｐ２にお示ししたご意見

基本目標	・高校を「義務教育とつなぐ場」、「社会とつなぐ場」とあるがこれを大事にしないと、数合わせになってしまう。（新川） ・「学びたい、学んでよかったと思える県立高校」が子どもにとって一番大事。これをどう具現化していくか、キャッチコピーで終わらないようにしてほしい。（新川） ・「『新時代』に適応し、未来を拓く人材の育成」という基本目標について、その通りではあるが、いつの時代も将来予測は困難であったため、そういう部分を解消し、知恵をつけていくのが教育なのだと思う。（高岡）
教育内容（学科構成）	・普通系学科がいくつも分類されているのは素晴らしい。（高岡） ・普通系学科を①～⑥を分けるのは分けすぎだと感じる。これらをどこの学校でも複合的に学んでいかなければ子どもの成長につながらない。（新川） ・中学校では、高校など調べたりさせているが、普通科については特徴が弱い。これを機に高校そのものがどう特色化していくか。（高岡） ・この資料を中学3年生が見たときに、「僕はスタンダード」となるのが大半なのではないか。（新川） ・以前は、偏差値かスポーツ科の2択くらいしかなかったが、グローバルやSTEAMなどがしっかり選択できるくらいカラーとして育つことが重要。（富山） ・行政・企業・大学等とのスムーズな連携を図り、生徒の個別の興味・関心に基づく探究的な学びをサポートできる教育環境をもつ普通科系高校が必要。（高岡） ・「未来創造」部活動強化について、どこの高校でどの部活動を強化していくのか決めていく必要がある。どの競技も競技人口が減る中、数多くの高校に生徒を分散させていては難しい。（富山） ・地域を支える人づくりや、一旦県外へ出ても地域に戻ってくるような子どもたちを大切にしたいという思いから、地域共創といった地域から学ぶ内容が必要。（高岡） ・「地域共創」は大切なテーマだが、中学卒業時に自ら選ぶことは困難。地元の将来のリーダーをつくるなど看板を魅力的にできないか。（富山） ・地域の特性はどちらでもよく、主眼ではない。世の中はどのように成り立っているのか、どういう仕事をしている人がいて、どういうスキルを持っていてなどを学んでほしい。そのための教科であり、教科を学ぶことが目的ではない。（新川） ・職業系は従来から人気があるが、⑧職業系専門学科がひとくくりになっていることが、もったいない気がする。（富山） ・教育内容については、普通系学科はよく整理されている。一方、職業系学科は未整理となっている。早く道標を見出し、関連進学先にどのように紐付けていくかが大切。しっかりと方向付けしてほしい。（高岡） ・地元の企業と連携して、職業科について考えていかなければならない。（新川） ・教育内容の周知の仕方によって、生徒が選ぶ高校が変わってくるのではないか。具体的に何をする学校か、何が身につくのか、必要なスキルが身につくということが見えてくるとよい。（新川）

学校規模	・現在最も規模の大きい富山工業320人を上回る学校のイメージがつかない。大きな学校が県内に2～3校必要なのか慎重に考えてほしい。（新川） ・大きなものを造るには、財源も必要になる。また、小さな学校をなくしていかなければいけないということにもなる。単純に、子どもたちを1カ所に集めてよかったねということにはならないのではと危惧している。（砺波） ・教員アンケートでは大規模校では生徒に目が届かないとあるが、先生が増えるのだから目が届くのではないか。（富山） ・子どもの選択肢を増やすという点では大規模校もあるべき。他県では学年17クラスや石川、福井でも普通科単独校で10クラス以上という学校がある。できないのではなく、設置すれば活動の場面が増え、切磋琢磨できるのでよい。（富山） ・大規模校は、選択肢が多く、柔軟性も高まると思う。一方で、一斉授業から脱却し、生徒の求めるものとマッチできるのかが課題だと思う。（富山） ・小規模の中学校から大きい高校へ入学した生徒が、適応に時間がかかる傾向にあるように感じる。大規模校を造るとそうしたリスクも増える気がする。（砺波） ・中規模校については、生徒や保護者、教員にとってもイメージしやすいが、大規模校については、様々なアイディアを募らせて、今までにないスタイルとしていかなければならないのではないかと考えている。（高岡） ・例えば小規模校においては、他の学校や地域の様々な世代の方との交流が大切になるのではないか。（高岡） ・小規模校では、生徒の顔と名前がほとんど一致し、表情もよく見えるため、少人数だからこそ強みのある手厚い指導が可能となる。そうした小規模校だからこそ、教科横断的な授業をどんどん実践できないかと思う。（高岡） ・生徒数の大小によるメリット・デメリットはある。教員の負担を考えた場合、少人数であれば子どもへの手厚さは増すが、仕事の分担の面では、負担が大きい。（高岡） ・大規模校は新築、中規模校は改修と書かれているのに対し、小規模校にはどのことが触れられていない。規模に関わらずワクワクできる学校を造ってほしい。（砺波） ・中学校から高校へ進学する段階で県外に流出することが問題になってきている。大規模校、中規模校、小規模校を含め、中学生の気持ちを汲んでいける学校が必要。（高岡）

教育内容と学校規模の組合せ	・普通系学科、職業系学科とはっきり区別して特色を出して、選択しやすい学科構成にする方がいいと思う。混ぜない方がいい。将来が決まっていなければ、とりあえず普通科となっているのが現状だと思う。（新川） ・1年で基礎的な内容の学習を履修し、自分の進路について考える時間を持ち、2，3年で将来の希望に応じた専門的な教育を選択できるようになればよいのではないか。（新川） ・生徒の興味や希望に合わせて主体的に選べるようにしたらよい。子どもたちのアンケートからも学習内容を選択したいという回答が多いし、教科横断型なども含めて、わくわくする学校になるのではないか。（砺波） ・バカロレアと普通科を設置しているところもあるので、その形も大規模校のイメージにもつながるかもしれない。それぞれの規模の中で、何をするかが大切だ。（富山） ・アンケート結果からは、生徒も教員も学習内容を選択できる仕組みがある学校の割合が高く、一致しているため、そうした結果を捉えていくことは大切だろう。（高岡） ・大規模校に商・工・農・水など専門学科を集めて、色んな子が交流できるのがよい。いろんな価値観を受け入れる仕組みをどう作っていくかが課題。普通科系でもコースを作ることで、いろいろな価値観に触れられる。中規模校でも多様な価値観に触れるために横展開をしていけたらよい。（高岡） ・小規模校については、この学校ではこれができるといった特色がないと、生徒は入ってこないだろう。（砺波） ・学科構成のパターンがA～Dといったようにあるが、どのような生徒を育てるのか、もう少し具体的に見えるようにすべき。（砺波）
配置数の目安	・何をもってそこに高校を置くのかという理由を明確にしなければならない。1番は子どもたちの利便性だと思う。（新川） ・「バランスよく配置」は人によって思いが違う、地域性のバランスよく、いろいろな学科があるというランスなどそれぞれの思いがある。（新川） ・小・中・大規模校の配置のイメージがつかない。小規模校は特色ということもあるだろうが、郊外というイメージがあるし。中心部に集めるのか、いろいろな考え方があるだろう。（富山） ・交通機関と学校の場所は非常に重要。砺波学区の場合は、城端線やバス通学以外は、親の送迎が必要となるが、共働きの家庭が多い中では、大きな負担感生じる。ある程度分散したような形の学校のあり方が必要だと思う。（砺波） ・移動時間が一番のロスであり、学ぶ時間に費やしてほしい。そのために適材適所へ配置し、近いところを選ぶということも一つの選択肢としてあると思う。（砺波） ・子どもたちは、地元なら地元の学校に行くだけではなく、市町村を出てみることも必要だと思う。日本でなくてもよい。地元に戻る大切さを学べると思う。（富山） ・県西部に大規模校1校とあるが、中規模校をそろえた配置の方がよいのではないか。生徒が通学によって消耗しない学校の配置が重要だと思う。（砺波） ・大規模校の設置をするのであれば、中心部になるだろうと思う。（富山）

Ⅱ.「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」について

配置の姿	・ゴールを決めてそこに向かっていく手法はよい。富山県はコンパクトな県なので実現しやすいだろう。進めていく途中で、計画の検証や評価が必要。令和 20 年度で 20 校になっても途中経過という意識をもって取り組むべき。（富山） ・小中学校で再編後も人口が減り、再度、再編しなければならない現状もある。そういうことがないように進める必要がある。（新川） ・計画が15年後で止まっている。その後を見通しているのか、その後も人口が減っていくので、15年後も耐えられる体制ではないと思う。この形を完成とすることが疑問。（新川） ・子ども達の学びがどうあるべきかということが一番大事。どのような資質を備えた大人になってほしいか、こどもファーストで考えて積み上げていった結果、順次進めていくのだと思う。（高岡） ・どういうものを目に映る形で示していけるかが大事で、未来の子育て世代に対して、不安を払拭できる形での情報の発信が必要だと思う。子育て時代を味方につけることが大切だと感じる。（高岡） ・ドラスティックに変わっていくことについては、情報提供をする仕組みと合わせながら、変化する段階毎にどのように変わっていくのかということを理解してもらえるようにすることは大切だと思う。（高岡） ・ハード面もソフト面もすべて含めた逆算が必要。中身についてのことがあり、ハード面の話というのはわかるが、その逆ではないと思う。（砺波）
移行準備校	・新時代HSと移行準備校が併設されることになるが、従来の学校の生徒が置き去りにならないように教育の質を担保する必要がある。（富山） ・すべてが移行準備校となったが、再編時には吸収されたように見える高校も出てくるだろう。そうなった時のためにも、子ども中心だという論点をしっかりと説明するべきだ。（富山） ・ゼロベースで、すべての学校を移行準備校としたのはよいと思う。ただ、令和7年度のうちに方向性が決まるのかは疑問に感じる。（砺波） ・検討の進め方の時期については、この通りだと思う。移行期間においては、新設校の新しい教育課程と統合前の教育課程が混ざることになるため、統合前の課程の生徒が卒業できるように保障する必要がある。（高岡）

Ⅲ．「目指す姿」の実現に向けた検討方針について

新時代ＨＳの開設等	・最終形である「新時代とやまハイスクール」20 校という姿を先に示し、三段階かけて段階的に進めていくバックキャスティングの考え方はよい。そのためには、具体的な校名はなくても、最終形の 20 校のイメージ図があるとよい。（富山） ・「目指す姿」については、最終目標が示されており、そこに向かっていくために、現在の生徒や保護者、地域の思いに寄り添いながら、少しずつ変化させていく中短期目標がある。こうしたことが無理なく進めていく上でよいと思う。（高岡） ・令和 10 年度に高校に入学する生徒は、令和7年度に中学校に入学する。何も見えないまま進路選択していくことになるので、早めに第1期校の情報提供をする必要がある。（富山）
学科・コースの改編等	・令和 20 年度のゴール設定が時間をかけることも大事だが、保護者の立場として、子どもが志望校を決めることに不安を覚える。スピード感をもって、令和 20 年度とは言わず、令和 15 年度などの早い段階で動ければ良いのではないか。（砺波） ・再編を3期に分けたのはよいと思っているし、学科改編などの今できることは、今取り組んだ方がよい。（砺波） ・魚津工業の一括募集については生徒・保護者の理解も進んでいるので速やかに行ってほしい。（新川）
様々なタイプの学校・学科	・現状、中学校と高校の学習内容は重複する部分があるため、教育内容が深まるような方向に進化していくのであれば、中高一貫教育というものは、価値のある教育スタイルになると思う。（高岡） ・中学校段階では地理的に通うことができなかったり、様々な事情があったりすることもあるので、中高一貫の課程に、他の中学校を卒業しても高校段階から入学できるようなシステムがあるとよい。（高岡） ・学力や教養、志について、小中高でそれぞれやるのではなく、継続的に取り組めるとよい。中・高と分ける必要もないのでなはいか。STEAMやバカロレアについても、中高で一貫して取り組めると、熱心な先生方も多いし、その取り組みが周りの学校にも波及していくようないい影響を及ぼすと思う。（高岡） ・全国募集については、県外に出て行くばかりではなく、全国から富山に来てもらえる流れを作るためにも、今後検討する必要がある。（高岡）

施設・設備	・移行準備校の設置、段階的に進めることに賛成。第2期までに計画が遅れ、校舎が使えないなど教育に支障が出ないように進めてほしい。 ・施設も大切。長寿命化工事も限界がある。新しい学校というのであれば、施設・設備にもお金をかけ魅力ある学校にしてほしい。（富山） ・どの学校も設備が古いのに、修繕の予算がないのではないか。もっと短いスパンで考えてもらいたい。（砺波） ・大改革として、施設・箱物の見直しにこそ希望がある。現状を見ても、いろいろな制約で生徒の希望を叶えられていないところもある。きれい、新しいというものを求めているのではなく、生徒と教員の意見も合わせて新しいものを取り入れられたらよい。（富山）
活力ある学校・組織づくり	・職業系学科の先生には、時代を先取りしたようなことを教えてもらいたい。そういう点からも、企業でできることは協力したい。（砺波） ・コーディネーターが県内に2名配置されているとのことだが、各高校にコーディネーターを配置できたらよいのではないか。企業も求めていると思う。（砺波） ・県が掲げる教育内容やハード面のコンセプトはよくまとまってきている。ソフト面、教育内容を具現化する教員の育成が必要。教員の研修や大学での教員養成の充実が必要。（富山） ・今できることは、教育課程をしっかりと取り組むことであり、新しいことにも取り組まなければならない。そこにあえて挑戦していく先生方の意識改革が大事だ。そこがあって、生徒も教員もウェルビーイングが高まると思う。（富山）
その他	・全日制だけで考えるのではなく、定時制や通信制も含めて考えていくべきではないか。愛知県ではフレキシブルハイスクールが開設されたことを踏まえると、その需要が今後ますます高まると思っている。（新川） ・いろいろな学び方があってよい。特別支援教育の観点などを大切にすべきではないか。すべての子どもたちにアクセスしていくことも大切だ。（新川） ・生徒が石川県の私立に行くこともよくあることだ。私学のプロモーション活動がさかんであることも理由ではないかと思う。（富山） ・中学校3年生の段階で県外に行こうとする子も多いので、小中学校との連携をしながら、県立高校で学びたい子が増えるとよい。（砺波） ・多様な入試制度を考えたらよい。学力以外の項目を設けて入試をしていかなければならない。（高岡）

第３回　地域の教育を考えるワークショップ　参加者一覧

コーディネーター：富山大学大学院教職実践開発研究科　林　誠一教授
富山大学　成瀬　喜則名誉教授・学長特命補佐

※敬称略

	新川学区		富山学区		高岡学区		砺波学区	
市町村教育委員会関係者	木村　博明	朝日町教育長	宮口　克志	富山市教育長	金谷　真	射水市教育長	沼田　勉	小矢部市教育長
	田中　良一	入善町教育委員会事務局長			近藤　智久	高岡市教育長	白江　勉	砺波市教育長
	中　義文	黒部市教育長			有島　洋之	氷見市教育長	松本　謙一	南砺市教育長
	長崎　亨	魚津市教育委員会参事						
	上田　良美	滑川市教育長						
	牧田　康博	上市町教育長						
	杉田　孝志	立山町教育長						
	土田　聡	舟橋村教育長						
経済界	伊東　潤一郎	アイティオ（株）取締役社長	土屋　誠	日本海ガス（株）取締役社長	津嶋　春秋	（株）アーキジオ取締役会長	上田　信和	砺波工業㈱代表取締役社長
	杉野　岳	（株）スギノマシン代表取締役副社長	稲葉　伸一	（株）三四五建築研究所代表取締役	北村　耕作	キタムラ機械（株）代表取締役	川合　声一	日の出屋製菓産業(株)代表取締役会長
保護者			青山　和也	富山県高等学校ＰＴＡ連合会	山村　紘次	富山県高等学校ＰＴＡ連合会	大峯　静佳	富山県高等学校ＰＴＡ連合会
			西能　淳	富山県高等学校ＰＴＡ連合会				
	伊東　浩二	富山県ＰＴＡ連合会	久保　有規依	富山県ＰＴＡ連合会	黒田　隆大	富山県ＰＴＡ連合会	山本　篤史	富山県ＰＴＡ連合会
中学校長	内生蔵　保人	舟橋中学校	竹脇　孝志	堀川中学校	杉山　智充	志貴野中学校		
高等学校長	田中　悟	新川みどり野高校	越後　喜紀	富山いずみ高校	中田　嘉幸	高岡商業高校	亀遊　知子	南砺福野高校
高校教諭	旦尾　紘一	入善高校	寺島　光紀	富山北部高校	羽賀　亮吉	大門高校	久保　孝幸	砺波高校
	中嶋　美奈子	魚津高校	近郷　智絵	呉羽高校	川腰　達也	高岡高校	松永　大樹	小矢部園芸高校